



楓の誉

R5.6.29(第3号)
文責: 瀧上 佳宏

良いか悪いかで単純化する文化

早いもので、本日で六月も終わり、夏季休業(夏休み)まで、カウントダウンする時期になりました。本校では二期制の趣旨を活かすため、一・二年生は、ここから夏休みまでの期間中に教育相談を行うことにしています。なお、希望により保護者の皆様の相談をお受けすることも可能です。また三年生は、夏休み中に進路選択に向けた三者面談を行います。

ところで、私(校長)が県教育庁(本庁)に勤務していた頃は、嫌というほどクレームの対応をさせていただきました。ある日の午後、全職員対象の研修がありました。超多忙な私は状況を見かねた上司の計らいで、「課に残って留守番」になりました。しかし、その時間に二本のクレームの電話がありました。結局、研修時間をはるかに超える約三時間、留守番中に捌くはずだった業務にも全く手を付けることができませんでした。

対面のクレームはまだいいです。電話のクレームは、「クレーム対応の三変法」も使えず、長時間になりがちです。しかし、基本は「傾聴」。私が校長として現場に戻る異動を公表された直後、もはや有名人のクレームの方から、私ご指名で電話がありました。「またか」と思って受けると、「瀧上さん、昇進おめでとう！」という電話でした。誠意ある対応は、必ず相手に通じるといっても実感しました。ところで、クレームを言う人がよく使う言

葉に「なんで〇〇はダメなんですか?」という質問文があります。これに正論で答えると、また「なんで〇〇なんですか?」、それに答えると、さらにまた「なんで、なんで。...。」と続きます。そういう時私は、直球で答えるのではなく、「なぜそういうお考えをお持ちなのですか?」のように、逆にこちらから質問を返すようにしていました。その質問への答えの中に見え隠れするクレームの方の寂しさや苛立ち、葛藤等に寄り添う姿勢を見せると、案外心を開いていただけだ記憶があります。

もし生徒が、「なんでツーブロックはダメなんですか?」と質問してきたら、私の答えは決まっています。「なぜ良い(ダメでない)か悪い(ダメ)で単純化するの?」です。一言でツーブロックと言っても、営業のサラリーマンのようなスタイルもあれば、あと一歩で「モヒカン」というスタイルまで様々です。「ダメでない」と言えば、ツーブロックは全て解禁と解釈するのでしょうか。それとも、以前の校則にあった「スカート丈膝下〇ミリ」みたいに、細かい基準を定めるべき...? 滑稽ささえ感じますよね。「単純化する文化」と言えば、最近、マスコミやSNSの、校則に係る良いか悪いかを前提とした(単純化した)報道・投稿をよく見聞します。その影響を受けている生徒や保護者も結構いるかもしれません。

私の関心は、その生徒が「なぜツーブロックに拘るのか」の方です。なぜなら、「なし崩し」あるいは「押し切られ」の形でルール変更をした学校が、その後、かなりの高い確率で荒れていくのを私は見てきました。「後がどうなるうが知ったことじゃない」という一部の身勝手な人達のために、生徒総会や生徒議会を通して丁寧に対応してくれていることが、台無しになることだけは避けたいと思っています。

郡市中体連の大躍進を今後へ

二十四日(土)、二十五日(日)の二日間に渡り(ソフトテニス)は二十三日から、令和五年度菊池郡市中学校総合体育大会(夏季大会)が実施され、各会場で熱戦が繰り広げられました。結果につきましては、HPにも掲載していますので、そちらもご参照ください。

残念ながら、優勝には手が届きませんでした。が、昨年度、団体種目は三位が最高位だったのが、今年度は男子ソフトテニス団体戦及び男子バスケットボールの準優勝、女子バスケットボールの三位入賞と「大躍進」と言える結果でした。また、社会体育の空手道は、団体で女子形及び組手、男子形の優勝、組手の準優勝、個人の数多くの優勝・入賞と、評判通りの大活躍でした。



最後まで全員で走り抜きました(準優勝:男子バスケットボール部)

県大会出場者はもうしばらく頑張ることにありますが、多くの三年生はこれをもって部活動引退です。今後(進路)のことを考えると、ここからの二週間の切り替えがとても大事だと言われています。早速、今週の水・木には、二年生の実力テストを実施しました。学力に関しては、昨年度同様、トップランナーで走ってくれるものと期待しています。

私事で恐縮ですが、校長は人工膝関節置換手術のため、六十日ほど学校を離れます。上半身はピンピンしていますので、オンラインを活用し、学校経営に支障が出ないよう、可能な限りリモートワークで対応することにしていきます。御承知おきください。



学校HPのQRコード